

令和3年度

全国特別支援学級・通級指導設置学校長協会
第3回全国理事研究・研修協議会



主催

全国特別支援学級・通級指導設置学校長協会
神戸市特別支援教育校園長協議会

後援

神戸市教育委員会 神戸市立幼稚園園長会
神戸市立小学校校長会 神戸市立中学校校長会
神戸市立高等学校校長会 神戸市立特別支援学校校長会

目 次

■ はじめに	1ページ
■ 実践発表	2～5ページ
・神戸市立竜が台小学校	
■ 神戸市の取組	6～9ページ
・神戸市教育委員会特別支援教育課	
■ 学校紹介	10～13 ページ
・神戸市立灘さくら支援学校	
・神戸市立灘の浜小学校	

【表紙写真(2021.8.10 撮影)の説明】

上(左):ハーバーランドから見たポートタワー等

上(右):メリケンパークの「BE KOBE モニュメント」

下:孫文記念館(移情閣)と明石海峡大橋

はじめに

令和2年の1月末、京都で開催された令和元年度の第3回全国理事研究・研修協議会の懇談会で、次年度(令和2年度)開催府県として「来年度は神戸でお待ちしています」とあいさつをした時、新型コロナウイルス感染症はすでに日本でも広まりつつありました。その後の感染の急拡大を受けて、2月末には学校園の全国一斉休校が決まりました。

令和2年度は、緊急事態宣言の発令を受けて、4月・5月と臨時休校が続き、ようやく6月から子どもたちが登校できるようになりました。こうした状況を鑑み、神戸市で開催する予定であった令和2年度の第3回全国理事研究・研修協議会は、「一年延期」を決断しました。

「一年延期」を決断した神戸市開催でしたが、令和3年度当初、市内の小・中学校でもクラスターが発生する事態となり、苦渋の決断ではありましたが、全国から神戸に参集していただいたの開催は断念し、研究冊子を発行しての誌上開催とさせていただくこととしました。研究冊子には、小学校での通級指導教室や神戸市教育委員会特別支援教育課の取組を紹介するとともに、大会2日目に視察を予定していた灘の浜小学校と灘さくら支援学校の学校紹介も併せて掲載しています。

最後になりましたが、今回の研究冊子の発行に際して、神戸市教育委員会特別支援教育課からいただいたご支援に感謝するとともに、研究冊子をお読みいただいた全国の皆様から、お気づきの点など、お声を聴かせていただければ幸いです。

大会実行委員会 委員長
神戸市立原田中学校
校長 中内 正人

竜が台小学校の取組

～多様性を認め合う学校を目指して～

神戸市立竜が台小学校 校長 木村 正

1.はじめに

平成28年に障害者差別解消法が施行されて、合理的配慮の実施等、共生社会の実現に向けて社会全体が動いている。

本校は、開校以来、特別支援学級及び通級指導教室が設置されている。本校の取組を含めて、通級指導教室での様子について記載したい。

2.竜が台小学校について

(1) 竜が台小学校の概要と地域の様子

本校は神戸市須磨区内にあり、昭和53年に、同区菅の台小学校より分離して開校した学校で、平成30年度に創立40年を迎えている。

校区は、須磨区のニュータウンとして開発され、昭和52年に開通した神戸市営地下鉄名谷駅(当時は名谷駅まで開通)周辺にあり、落合や竜が台地域では一気に住居者が増えた。

その結果、開校した当時の児童数は768名で、昭和58年には、1533名もの児童が在籍していた。

しかし、その後は地域の人数も減少傾向となり、平成に入ると児童数も1000人を切ってしまい、阪神・淡路大震災後の平成7年に500人を切った。

現在では児童数は115名で1学年1学級となり、須磨区内20小学校でも1番児童数が少ない。

学校周辺の地域の人口の25%は60代以上となり、開校時と町の様子も変わりつつあるが、保護者や地域の方々は学校に対して協力的で、本校の教育活動に対して前向きに取り組んでくださる。

特に、平成9年の神戸連続児童殺傷事件では、本校女兒(当時4年生)も被害者の一人で、尊い命を奪われた経緯もあり、地域では「見守り隊」として、高齢者が多い中ではあるが、毎日登下校時には、通学路や校門前に立って子どもたちに声掛けをする等、現在もご尽力いただいている。

(2) 本校の教育目標及び学校の主な取組

①【教育目標】「命を大切にし、笑顔いっぱい、夢いっぱい、キラリ輝く竜が台っ子」

教育目標の実現に向けて、「自ら学び考える子」「仲間と共に歩む子」「たくましく生きる子」の3本柱を立て、「全教職員で、全ての子どもを育てる」ことを基本として、本校の一人一人の子どもたちが、生き生きと楽しく学校生活を送ることができるよう取組を進めている。

② 昭和61年には、文部省(現文部科学省)から全国学校体育研究会の指定を受け、昭和58～60年までの3年間は神戸市体育研究発表会を、平成10年には神戸市健康教育研究会の指定を受けた。

平成10年・16年・19年・30年の区域別人権教育推進協議会では、全学級授業公開をする等、意欲的に学校教育を進めてきている。

③ 令和元年度より、神戸市の特別支援教育支援員配置事業の「通常の学級におけるLD等への支援」事業を、今年度も含めて3年間受けている。

研究テーマを「スムーズな移行に向けた小中連携の在り方」として、1年次は、「特別支援教育の視点から子どもの実態をとらえる」とし、2年次は「中学校区を意識し、児童生徒理解を深め、自校の取組を工夫する」、3年次は、「中学校区を意識し、児童生徒理解を深め、自校の取組を工夫するとともに効果的な支援の引継ぎを行う」という目標で進めており、神戸女子大学から谷山優子准教授にお越し頂き、ご指導を受けている。

④ 令和元年「第47回神戸市特別支援教育研究大会」で、本校特別支援学級担任が、ことば・かずの指導で「数えて分けて、比べよう」と提案した。本提案は、「第59回全日本特別支援教育研究連盟全国大会(長崎)」で、教科別の指導(小学校)で提案予定だったが、コロナ禍で中止となった。

3. 本校の子どもたちの実態

(1) 子どもたちの様子

本校の子どもたちは明るく、素直で人なつこく、向上したいという願いを持っている子どもが多い。

学びたいという姿勢が身に付いてきてはいるが、基礎学力が定着しつつある子と課題の多い子の格差は、学年が上がるごとに広がる傾向がある。また、与えられた課題には意欲的に取り組めるが、自ら課題を発見し追究する力は、十分ではない。

本校はどの学年も単級のため、学級替えもなく、教職員の数も少ないので、新しい友達や教職員と出会う機会も少ない。そのため、新しい価値観や考え方に触れ、それを受容したり新しい人間関係を築いたりする力が付きにくいという一面もある。

(2) 特別支援学級の子どもたち

一昨年度までは、特別支援学級が3クラスあり、知的障害学級が1学級、自閉症・情緒障害学級が1学級と、病弱学級が1学級だったが、昨年度から、知的障害学級と病弱学級がともに1学級で、今年度は、それぞれ1名ずつの児童が在籍している。

普段から交流のある学年だけではなく、例えば、1年教室に行き1年生の子どもたちにも、特別支援学級の様子が分かるように、交流会を開いている。

(3) 特別な支援を必要とする子どもたち

各学年の児童数は、平均して20名前後である。どの学級にも、対人関係や社会性、感情のコントロール、情緒面や行動面等、特別な支援を必要とする児童が在籍しており、それぞれの子どもたちの課題に対して取組を進めている。

現在、本校の「通級指導教室」に通う児童数は、2年3名、4年2名、5年1名で、こうべ学びの支援センターを利用した児童は、3年1名である。

(4) 児童理解に向けて

毎月1回、職員会とは別に会議を開き、各学級の気になる児童の様子やそれぞれの背景も含め、職員全員で共通理解を図っている。

保護者からの依頼も含めて、各担任が普段の子どもの様子を見て、必要な場合は校内支援委員会を開き、個々の子どもたちの困り感に寄り添いながら、その子どもに適した手立てを相談している。

4. 本校の研修について

(1) 研修の目的と学校教育目標の実現に向けて

研修では教員としての資質向上を図ることや指導力向上のため、子どもの実態や教育の実践について話し合うことと、今日的課題について理解を深め、実践に生かすことを目的としている。子どもの実態を考え、学校教育目標と合わせて、子どもに付けさせたい力を決めて取組を進めている。

○「自ら学び考える子」

＊自分の気持ちや考えを伝える力

＊人の気持ちや考えを受け止める力

○「仲間と共に歩む子」

＊自分も周りも大切にす力

＊仲間との違いを受け止める力

○「たくましく生きる子」

＊(低学年)最後までやりとげる力

＊(中学年)あきらめずに努力する力

＊(高学年)たくましく・しなやかに生きる力

(2) 研修で力を入れている内容

① 1人1台端末を使用した授業づくり

児童の端末で、SKYMENUやTeamsを使用した授業をつくる。令和3年度1学期には市教委より講師を招き、授業で全教員が使用できるように取り組み、2学期は講師を招き、児童の端末を使用した公開授業を行い、研修を行う。

② 力のつく授業(神戸方式)の創造

神戸市授業アイデア版(令和2年度)を参考に、子どもが学びたくなる導入作りや、一人一人が考えを深める学習の創造を目指している。

③ 特別支援教育の充実を図る

市教委指定の「通常の学級におけるLD等への特別支援」の事業を継続して受け、発達障害児の理解と、ユニバーサルデザインの授業づくりについて研修を深めている。各教室の子どもたちが、どのような点で困っているのか、不安を感じているのか等の個別の研修も行っている。

8月末には、関西国際大学の百瀬和夫教授に、「学級づくりに、特別支援教育の知見を生かそう」という職員研修を行い、子どもの理解や声かけの仕方等を教えていただき、とても勉強になった。

5. 通級指導教室について

(1) 開校当時の通級指導教室について

神戸市では、昭和41年に「言語障害通級指導教室」を、昭和46年には「情緒障害通級指導教室」を設置している。

本校では、開校当時の昭和53年より、通級制の「情緒教室」として、小学校2学級、幼稚園1学級を、中学校舎内の1階の教室に設置している。

新設2カ年間の記録によると、「人間が成長するにつれ、人と人のかかわりの中で、情緒は分化し発達し豊かな人間形成がなされていくと思われる。しかし、対人関係が取りにくい子どもたちや、集団生活にとけこめない子どもがたくさんいる。(中略) 集団生活にとけこめない子どもたちの情緒の安定を図り、心の健康を取り戻し、進んで集団生活に参加できるように指導をするところである」とある。

この教室で指導を受ける子どもとしては、「友達と遊べない」「すぐかっとなる」「自閉的傾向がある」「落ち着きがなく、じっとしておらない」と記載され、「このような子どもたちは、できるだけ早期に発見し、早い時期に適切な指導を受けることが大切である」とも記載されている(当時の記録より抜粋)。

本校では40年以上に渡り、一人一人の子どもたちに即した指導を継続していると言える。

(2) 現在の通級指導教室について

平成5年、学校教育法施行規則の改正により、通級指導教室が制度化された。

平成8年には、本校通級指導教室に、中学校教室が開設された。これを受けて、本校の通級指導教室の場所が、南校舎の1階から3階までのいくつかの教室に移転した。

現在では、南校舎1階から4階までの全教室を通級指導教室として使用している。



▲通級指導教室がある南校舎外景(令和3年)

現在、神戸市の通級指導教室は、「きこえとことばの教室」が8教室、「そだちとこころの教室」が6教室で、市内の幼・小・中の幼児・児童・生徒が通って学習をしている。

本校通級指導教室は「そだちとこころの教室」で、須磨区と長田区から幼児と児童が通ってきている。中学生は、須磨区と垂水区から通ってきている。

平成30年からは、神戸市でも、高校の通級指導教室が開始され、本校にのみ設置されている。

本校の通級指導教室の対象となる幼児・児童・生徒は、「自閉スペクトラム症(ASD)」「情緒障害」「学習障害(LD)」「注意欠如多動性障害(ADHD)」を主としている。



▲3階の通級指導教室の様子(令和3年)

本校の通級指導教室への申し込みの流れは、以下の通りである。

- ① 該当校にて校内委員会で検討
- ② 該当校の管理職より、本校(筆者)に連絡
- ③ 通級担当者より、該当学級担任や特別支援コーディネーターと連絡
- ④ 該当の保護者と通級担当者との面談
- ⑤ 通級担当者が該当学級を参観
- ⑥ 通級担当者が「見立て」等の資料を作成
- ⑦ 通級指導者会議にて検討
- ⑧ 通級指導の開始

上記⑦の通級指導者会議では、担当者が作成した「見立て」を尊重しながらも、見立ての根拠が成育歴や現状で示されているか、また、支援のポイントや指導内容は適切か、保護者や子どもの願いに基づいているか等を検討して、通級による指導が適切かどうか、幼・小・中・高の通級担当者全員で話し合っ決定している。

6. 通級指導教室での成果と課題

(1) 通級指導教室での成果

本校では、幼・小・中・高の通級担当者が一堂に会して、発達段階における子どもの姿を理解することができるので、連携した指導が実施しやすい。

毎月の通級指導者会議では、幼・小・中・高の通級担当者が見立てを検討し、それぞれの立場から、通級指導が必要な子ども達に適切な指導方法等を出し合うことや、評価ができることも成果である。

指導内容は、運動遊び・制作活動・グループ活動等があるが、子どもの状態等によって変わる。現在は感染症対策を踏まえ、個別指導を行っている。

【本校の児童の例】

2年生当初から行き渋りがあった本校の児童は、最初は、担任が子どもや保護者に話をしていたが、次第に教室に上がれなくなった。

校内支援委員会を開き、通級担当者が、保護者と相談を進めていくと、母自身に子育てで不安があること等、家庭での様子が次第に分かってきた。

担当者が本児や母の困り感に寄り添い、最初は校門まで来て担任に挨拶をするところから始めた。母親の協力も得られ、教室前に母がいると、本児も安心して教室に入ることができるようになった。

本児はトイレの失敗も多々あったが、3学期には、担任に「トイレに行く」と言えるようになってきた。

学習面では計算はできるが50音の読み書きは苦手で、会話もゆっくりとならできる状態だった。本児が読み書きで困っていることに関しては、通級指導教室で音声付き教科書も利用した。

3年生でも通級担当者が母親との相談を進め、母自身が育ちの中で学習での苦しさを感じており、母の不安を本児も感じていることが分かった。

母のしんどさを共有しながら、母に医療機関の受診を勧める等、相談を継続すると、3年生後半から、本児も友達と一緒に遊ぶ姿も見られるようになった。その頃には、母の姿が見えなくても、教室で学習を進めることができるようになってきた。

現在本児は4年生。母と登校せずに友達と登校してきている。学習面での課題は残っているが、本児も母にも笑顔が増えてきたことが感じられる。

(2) 通級指導教室での課題

① 通級指導教室と他との連携について

在籍校を含めて、他との連携が取れているか、通級側から、相手校や、必要に応じ他の関係機関にも連携が取れているか等の確認が必要である。

② 新型コロナウイルス感染症対策に関して

感染症対策の一環で教育活動に制限がかかる。子どもたちの中には、周囲と共に動くことが苦手な子どももいれば、予定の変更が苦手な子どももいる。マスク着用だが、負担に感じている子どももいる。子ども同士もお互いに表情が読み取りにくく、大人の表情も分からずに困惑している子どももいる。制限が多い中で、一人一人の特性や実態に応じた対応が、通級でも求められていると考える。

7. 終わりに

令和3年1月、文部科学省答申の「令和の日本型学校教育の構築を目指して」と出された、「新時代の特別支援教育の在り方」の中で、障害のある子どもの学びの場の整備・連携強化、特別支援教育を担う教師の専門性向上、関係機関との連携強化による切れ目ない支援の充実等が挙げられていた。

今回、本校の取組を振り返る機会を頂いたことに感謝しながらも、子どもの学びの場の整備や、特別支援教育に関する指導力や専門性の向上、SC やSSW との連携を深めていくこと等、本校の課題解決に向けて取組を見直し、教育活動を継続していく所存である。

【参考文献】

- ・文部科学省 小学校学習指導要領
- ・文部科学省 初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド
- ・文部科学省 (参考)通級による指導の現状
- ・東洋館出版社 「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック 田中裕一(監修)
- ・福村出版 「愛情の器」モデルに基づく愛情修復プログラム 米澤好史(著)
- ・こうべ学びの支援センターと通級指導教室より

笑顔の花咲く特別支援教育

～子供たちの教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

神戸市教育委員会事務局 特別支援教育課 水金 稔

神戸市では障害のある幼児児童生徒が自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加するために必要な力を培うため、合理的な配慮の概念を踏まえた取組を推進してきた。

新しい特別支援学校の建設、医療的ケア児の支援、神戸市の高等学校における通級による指導の制度化、自校通級指導教室の設置等、子どもたちの教育的ニーズを踏まえ、検討してきた。さらに、特別支援教育にかかる就学支援のあり方についても見直しを考えている。子どもたちの教育的ニーズを踏まえた学びのさらなる充実に向けて、神戸市の取組を振り返ってみようと思う。

1. 新設された特別支援学校(令和3年4月開校)

(1) 神戸市立灘さくら支援学校

知的障害部門と肢体不自由部門を併置する特別支援学校として、また、小学校と合築する特別支援学校として開校した。特別支援学校と小学校が交流できる校舎の造りを工夫し、交流スペースを設け、子どもの相互理解を深め、共に学び育つ教育活動を推進していく。灘さくら支援学校の児童生徒と灘の浜小学校の児童が教育活動を通して出会い、お互いの長所に目を向けたり、困っている友達に「どうしたん」と気にかけてりする関係が広がり、深まっていく、そんな機会が増えることを願う。

(2) 神戸市立青陽灘高等支援学校

障害の特性や発達の様子、個性を踏まえ、生活コース・社会コース・職業コースの3つのコースを設定し、卒業後を見据えた一人一人の社会的・職業的自立を目指し、教育活動を推進していく。青陽灘高等支援学校での教育活動を通して、生徒が集中できること、夢中になれること、得意なことを見つけ、胸張って、卒業していくことを願う。

2. 特別支援教育にかかる就学相談について

(1) これまでの就学相談の現状

特別支援学級に就学(入学)の際、居住校区の小・中学校が窓口となり、保護者の意見を尊重しながら就学相談を実施している。小・中学校での就学相談実施後は、神戸市就学支援委員会(有識者、学校関係者等)に諮り、入学することとしている。

(2) 課題

- ・保護者から特別支援に関する内容の相談(発達が気になる等)が増加し、内容も多様化・専門化している。
- ・就学相談時に、本人・保護者に対して就学に関する十分な情報提供(通級による指導、特別支援学級、特別支援学校等)を行う必要がある。
- ・インクルーシブ教育システムの理念を構築し、特別支援教育を進展させていくために連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備を図る必要がある。

(3) これからの就学相談に向けて

小・中学校で対応している就学相談に先立ち、教育委員会において、『就学説明会及び個別就学相談』を実施する(令和4年度～)。令和3年度は、神戸市内にある3か所の療育センター通所者に対して、特別支援教育課が就学相談を先行実施した。

(4) 保護者や小・中学校の反応

「時間割や教科書など、知らなかったことを教えていただき、参加してよかったです。一人ではなかなか就学を決断するのは難しいので、こういった相談できる機会はすごくありがたい時間でした」

(保護者の反応)

「指導主事から就学相談シート(保護者記入)と相談記録の情報共有していただき、配慮が必要なこと等が分かりました。保護者面談に備え、聞き取ることの整理や心構えができました」

(学校の反応)

保護者が早くから就学について相談できることは、「その子にとって必要な力は何なのか」「伸ばしたい力は何なのか」といった話題を共有でき、その子にふさわしい学びの場を保護者が深く考える機会になると考える。そのためには、通常の学級、特別支援学級、特別支援学校の教育課程や使用する教科書、学校生活の一日の流れ等の正しい情報が必要である。教育委員会事務局と保護者と学校が、「その子にとって必要な力」をキーワードに情報を整理して、就学先を柔軟に考えることが必要である。

3. 学校訪問について

令和3年度から、学校のニーズに対して迅速に対応する学校園訪問を実施してきた。課題の初期段階で問題解決を図り、特別支援学級で安定した経営ができるよう支援したり、配慮を要する幼児児童生徒への個に応じた指導・支援についての助言を早期の段階で行ったり、すぐに学校園現場に足を運び、管理職・担任と一緒に支援を考える学校園訪問を目指してきた。

○幼稚園

各区を担当するインクルーシブ教育相談員及び指導主事が、神戸市立の幼稚園を訪問する。教育活動に参加しにくい園児に対する、個に応じた指導・支援についての助言を行う。

○特別支援学級

在籍児童生徒の増加に伴う学級増、特別支援学級を初めて担任する教諭、知的遅れのない児童生徒の入級等に伴う特別支援学級経営についての相談を、早期の段階で受け付け、安定した学級経営となるよう迅速に支援を行う。

○通常の学級

配慮を要する児童生徒への集団指導を通しての支援や個別指導における支援などを、早期の段階で相談を受け付け、個々のケースに応じた支援をこうべ学びの支援センターや児童生徒課等の他課と連携し、迅速に対応する。

○特別支援学校

年2回、定期的な学校訪問を行い、授業参観や学校長・教職員との面談、教育課程や(新)個別の指導計画などの情報共有などを行っている。

これまでの学校からの訪問要請を振り返ると、授業に参加できない児童生徒への関わり方、特別支援学級を初めて担任する教諭からの自立活動の内容や保護者との関係づくりの相談、授業作り・個別の指導計画や教室環境を含めた学級経営の助言などにまとめることができる。学校訪問では、児童生徒が困っていることや夢中になれること等の実態把握やその行動が起こる背景を学校と共有し、一緒に取組を考えることを大切にしてきた。

今後の訪問では、取組を続けた結果、児童生徒が少しでもよりよく変化した姿を担任団に伝えることを大切にしたい。担任団が「この関わり方でいいんだ」と自信をもって子どもたちと向き合えるように、学校の取組を後押しできる学校訪問を続けていきたいと考える。

4. こうべ学びの支援センターについて

通常の学級に在籍している学習や生活などに困難さがあり発達障害及びその可能性のある児童生徒に対する学校の支援体制の充実を図るために、平成16年4月より「こうべ学びの支援センター」を開設している。

○事業概要

① 相談

学校に対して個別の指導計画作成等の助言を行ったり、関係機関との連携を図ったりする。臨床心理士等の専門の相談員を配置し、保護者や学校からの相談に対応するとともに、子どもの観

察及び発達検査、読み書き検査などによるきめ細かな実態把握をする。その後、保護者に結果等の説明を行う。

② 医療教育相談

必要に応じて医療教育相談員による児童生徒及び保護者面接により、総合的な特性判断及び保護者・学校へのアドバイスをを行う。

③ 学校巡回

実態把握や医療教育相談の内容、集約した情報をもとに、学校への巡回相談を行う。支援の方向性や具体的な指導方法を助言したり、個別の指導計画作成のためのアドバイスをしたりする。

④ アドバイス巡回

学校からの要望に応じて、検査面談を経ずに巡回相談員や専門相談員が学校を訪問し、対象児童生徒の授業参観の後、支援の手立てについて助言を行う。

⑤ こうべ学びの支援センター実地研修

H26年度より実施。こうべ学びの支援センターで実地の研修を行う。R2年度はコロナ禍のため中止したが、R3年度は実施中。

5. 通級指導教室について

幼稚園・小学校・中学校に通う子どもたちの中で、通常の学級に在籍している障害のある子どもたちに対して、障害に応じた特別な指導を受けるための通級指導教室を設置している。

(1) 幼小中拠点校通級指導教室

きこえとことばの教室(対象:言語障害、難聴、自閉症、LD、ADHD)(8ヶ所)、そだちとこころの教室(対象:情緒障害、自閉症、LD、ADHD)(6ヶ所)を設けている。聴力検査室で聞こえの状態のアセスメントを行い、構音指導や難聴指導を行ったり、プレイルームでの感覚遊び・感覚運動を取り入れた指導や、ソーシャルトレーニングなどのグループ活動を行ったりしている。また、自校通級指導担当者へのサポート・アドバイスも行っている。

(2) 自校通級指導教室

通常の学級に在籍する情緒障害・自閉症・LD・ADHDとその傾向にある児童生徒が対象である。個に応じた自立活動の内容を指導の基本とし、必要に応じてグループ指導も行う。令和3年度現在、小学校に15校設置されている。今後、令和8年度にかけて、小中学校約100校程度設置の予定である。自校に通級指導教室があることのメリットは、以下の3点である。

- ① 保護者による送迎の負担がなくなる。また、児童生徒の移動時間が少なくなることで、通常学級における授業時間が確保しやすい。
- ② 通級指導担当教員が通常学級の巡回を行いやすく、学級担任や教科担任と日常的に情報共有ができ、連携をとりやすい。
- ③ 校内に自校通級指導教室があることで、その校の職員の意識が高まり、特別支援教育の裾野が広がりやすい。

【うおっこルーム：魚崎小学校】



【しらぎくルーム：成徳小学校】



(3) 高等学校の通級

- 自閉症・LD・ADHD とその傾向により学習上または生活上に困難がある生徒が対象である。
- 担当教員が市立高校を巡回する方式で実施している。令和3年度5月1日現在、通級指導対象生徒は14名である。
- 個に応じた自立活動の内容を指導している。

(4) 通級指導教室の効果

- 個に応じた課題を設定し、児童生徒のペースで学習を進めることができ、達成感を味わうことができている。
- 児童生徒の成長を保護者と共有することで、家庭でも取り組めることが増え、家族にも認められる機会が増えた。
- 登校渋りのあった児童生徒が、通級指導教室という居場所をきっかけに、意欲的に登校することができるようになった。(自校通級指導教室)

学校から通常の学級の児童生徒の相談が多くなっている。このような子どもたちにとって通級指導教室は安心して学ぶ場として捉えられるだろう。「通級で楽しく学んで、学級で頑張る」という子どもたちがより増えることを望む。

6. 神戸市における医療的ケアについて

医療的ケアの必要な幼児児童生徒が、安心して学校園生活を送ることができ、可能性を最大限に発揮させ、将来の自立や社会参加のために必要な力を培うことを目標としている。

(1) 特別支援学校における医療的ケア

令和3年度、神戸市立特別支援学校には、医療的ケアを必要とする児童生徒が94名在籍し、学校看護師や認定された教職員が導尿、たんの吸引、経管栄養、人工呼吸器の管理などのケアを行っている。

(2) 幼稚園・小中学校における医療的ケア

令和3年度、神戸市立学校園には、保護者による医療的ケア実施が必要な幼児児童生徒が16名在籍している。神戸市が委託契約した訪問看護ステーションからの派遣看護師が週あたり最大10時間、たんの吸引、経管栄養、導尿、インシュリン注射等のケアを行っている。

現在、「学校園における医療的ケア～すべての子どもが安全・安心な生活を送るために～」というパンフレットを作成し、神戸市ホームページに掲載予定である。多くの学校園職員が、医療的ケアの情報を知ることは、自校園に入学・入園予定の医療的ケア児への体制を整え、準備する上で必要なことと考える。

7. 今後の神戸市における特別支援教育に向けて

障害のある子どもの教育支援の手引(令和3年6月 文部科学省 通知)には、「教育支援中心の「点」としての教育支援だけでなく、早期からの教育相談・支援、就学相談・支援、学校や学びの場の変更を含む就学後の継続的な教育支援に至る一連の「線」としての教育支援を目指すべきである」と記されている。

今後、本市における特別支援教育においても、早期から障害のある子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、最も的確に応える指導を提供できる就学先となる学校や学びの場について、本人及び保護者に情報提供を行い、教育委員会が決定したいと考える。

また、就学先決定後も本人の障害の状態等を踏まえ、保護者及び学校と連携し、学びの場の変更も柔軟に見直すことも進めていきたいと考える。

これからも「子どもが安心して学ぶにはどうしたらいいのだろう」「子どもが夢中になる教育活動ってどんなんだろう」「10年後、子どもにとって必要な力は何だろう」と、神戸市の特別支援教育は子どもを第一に取組を考えていきたい。

ともに歩む小学校と特別支援学校

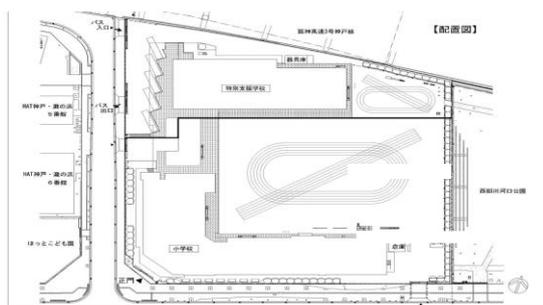
神戸市立灘の浜小学校 校長 山川 寿夫
神戸市立灘さくら支援学校 校長 福島 勝

1. 開校の主旨

神戸市灘区南部・中央区東部では児童数が増加傾向にあり、今後も集合住宅の建設などによりさらに増加が見込まれることから、この地域の小学校の過密化・教室不足に対応するため、HAT 神戸地域に新たな小学校の開校を計画した。また、市東部の特別支援学校についても、児童生徒数が増加傾向にあることから、同一敷地内に特別支援学校を建設し、小学校と一体的に整備を行うことになった。

神戸市では、一人一人の教育的ニーズに対応できる学びの場を充実させるため、特別支援学校の整備にも努めてきており、平成21年には青陽須磨支援学校、平成25年には友生支援学校、平成28年にはいぶき明生支援学校が開校し、令和3年には、知的高等部だけの青陽灘高等支援学校と小学校と特別支援学校が合築しているという特徴を持つ灘さくら支援学校が開校した。特別支援学校と小学校とが合築しているという例は全国的にも珍しく、2校の交流の在り方については、検討を重ねているところである。

【上空から見た灘さくら支援学校と灘の浜小学校】



2. 概要

○灘の浜小学校



- ・西灘小学校及びなぎさ小学校からの分離新設
- ・想定児童数約550人⇒令和3年4月397人で開校

○灘さくら支援学校



- ・青陽東養護学校及び友生支援学校からの分離新設
- ・知的障害部門：小学部、中学部
- ・肢体不自由部門：小学部、中学部、高等部
- ・想定児童生徒数約180人⇒令和3年4月133人で開校

3. 施設

(1) 2階と3階でつながる2校

校舎外に出ることなく、両校を行き来できるように、2階と3階は扉一つでつながっている。電子錠を使って扉が開閉できるようになっており、2階には交流に活用できるよう、小学校側に交流ランチルーム、支援学校側に多目的室が配置されている。また、運動場も必要に応じて一体となって活用できるようになっている。防災設備は灘さくら支援学校職員室で一元的に管理するようになっている。

【小学校交流ランチルーム】



【支援学校多目的室】



【2階及び3階の扉】



【一体で活用できる運動場】



【防災設備の写真】（津さくら職員室写真）



(2) 小学校、特別支援学校としての施設の特徴

【小学校玄関】



【小学校屋上プール】



【支援学校温水プール】



【支援学校屋上運動場】



灘の浜小学校教育プラン

中教審答申より

自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる資質能力を育成することが求められている

神戸の教育理念

人は人によって人になる

目指す人間像

心豊かに

たくましく生きる人間

具体化した姿

- ① 知徳体にわたる生きる力を身に付け、自ら学び、考え行動する
- ② 互いの人権を尊重し、多様な人々とともに生きる
- ③ よりよい社会を築く一員となるための資質と自覚を高める
- ④ 夢や志を持ち、自ら目標を定め挑戦する
- ⑤ 豊かな国際性を身に付け、地域や国際社会の持続的な発展に貢献する

学校教育目標

じぶん大好き みんな大好き

(自己肯定感を高め、多様性を認め合える子供の育成)

目指す子供像

- ・違いを認め、思いやりのある子 (豊かな心の育成)
- ・たくましくねばり強い子 (健やかな心と体の育成)
- ・主体的に考え行動する子 (確かな学力の育成)

子供一人一人のニーズ

に応じた教育の充実

- ・特別支援教育の視点
- ・実態把握からスタート
- ・授業のUD化
- ・カリキュラム
マネージメント
- ・個別最適な学び
- ・キャリア教育の充実
- ・保護者との連携

インクルーシブ教育

システムの構築

- ・特別支援教育の推進
- ・はまかぜ学級と交流学級との連携、交流
- ・灘さくら支援学校との連携、交流
- ・青陽灘高等支援学校との交流
- ・渚中学校、原田中学校との連携、交流

学校テーマ 夢が生まれる灘の浜小学校

(子供も教職員も未来志向)

① 目指す教職員集団

- ・小さな成長も見逃さずに、しっかりほめることができる教職員集団
- ・子供の実態を把握し、その子に応じた支援を考える教職員集団
- ・子供たちにたっぷり愛情をかける教職員集団
- ・成功体験を味わえる授業づくりを実践する教職員集団
- ・学校全体で子供たちを育てる意識を持った教職員集団
- ・働き方改革を意識し、創造的に仕事に取り組む教職員集団
- ・互いに認め合えるように努力する教職員集団

② 灘の浜小学校をこんな学校に (代表委員会)

- ・1年生から6年生まで全員仲良く、困っている人を助けられる優しい心を持つ
- ・明るいあいさつができる
- ・挑戦、何事にも頑張る

社会に開かれた教育課程

- ・地域との連携
- ・外部人材の活用
- ・外部機関と連携した防災教育の充実
- ・地域資源を生かした単元の開発
- ・他市小学校との交流
- ・近隣の幼稚園、保育所、こども園等との連携

研究主題 自分も友だちも大切に、話したり聞いたりできる子

【研究の視点】

- (1) 話す力の育成 [話す力 = (内容 + 声 + 態度) × 相手への思いやり]
 - ・発表についての系統的指導「話型」「話し合うためのつながる言葉」
 - ・発声方法の指導
 - ・話し方(視線、目線、ジェスチャー、指し示し) ※朝の会のスピーチ等でも
 - ・相手の立場になって話す、伝える意識
- (2) 聞く力の育成(聴く力・訊く力)
 - ・聞き方についての系統的指導
 - ・様々な形での反応
 - ・受け取る意識

※「プログラミング教育・ICT教育」と連携した授業づくりの視点

【学年目標】

1年	やる気 げん気 ほん気～自分もがんばる みんなで がんばる～
2年	できるできる ～レッツ チャレンジ!!～
3年	みんなちがって、みんないい。～ヒーローになろう～
4年	彩りゆたかな学年をつくろう
5年	五つ星 正+生+世+盛=成
6年	アイ! あい! 愛!～強い気持ち・強い愛～アイ…自分を大切に あい…相手・助け合いを大切に 愛…愛着をもとう
はまかぜ	優しい心・元気で前向きな心と体・きりかえのできる心をもつ子
音楽	笑顔、響く音、伝える思い ～Eye メッセージを通して～
図工	自分で みんなで ためして 感じて つくりだそう!
食育	食べることを大切に、豊かな心と健やかな体を作る
健康教育	自分の生命、友達の生命を大切に、豊かな心で生活しよう

誰もが安心して過ごせる灘の浜小学校

灘さくら支援学校 運営計画

理 念

ともに学び ともに育ち 自分らしく生きる

(共生社会の一員として生きる力を育成し、個性の伸長を図る)

目指す学校像

相互理解

一人一人を大切にし、
思いやりとやさしさが
あふれる学校

個性

一人一人に応じた
多様で柔軟な学びを
創造する学校

社会

一人一人がきらめき、
保護者、地域から
愛される学校

学校教育目標

集団や社会の中で
仲間と共に学ぶ
児童生徒を育てる。

自分と向き合い、自ら考え、
判断し、意欲的に活動する
児童生徒を育てる。

家庭や地域の中で自分の
役割を果たそうとする
児童生徒を育てる。

学部目標

【小学部】
仲間と過ごす楽しさや喜びを味
わい、人とのびのびかかわる児
童を育てる。

【中学部】
仲間を大切にし、認め合いなが
ら共に学ぶ生徒を育てる。

【高等部肢体】
仲間と学び合いながら関わりを
深め、自ら発信する生徒を育て
る。

【小学部】
自分の好きなことや得意なことを
見つけ、わくわく遊び、学ぶ児
童を育てる。

【中学部】
さまざまな経験を通して自分と
向き合い、自ら選択決定し、活
動する生徒を育てる。

【高等部肢体】
社会に活かせる思考力や判断
力を培い、個性を大切にする生
徒を育てる。

【小学部】
身近な人とふれあうなかで自分ら
しさに気づき、いきいき活動する
児童を育てる。

【中学部】
家庭や地域の中で周りとのつな
がりを意識し、自分らしさを実現
する生徒を育てる。

【高等部肢体】
自分の役割を実践し、生きがい
をもって、自ら地域社会とかかわ
る生徒を育てる。

学校経営基本方針

○灘の浜小学校の児童と灘さくら支援学校の児童生徒の相互理解を深め、交流及び共同学習を推進する。
○青陽灘高等支援学校とのつながりを考慮した教育活動を推進する。

○望ましい社会参加を目指し、一人一人に応じた自立活動の充実を図る。
○発達段階に応じた教育活動を推進し、学部経営の充実を図る。

○地域資源を活用し、安全で安心できる環境の整備や危機管理体制の充実を図る。
○保護者、地域、関係機関と連携し、地域における特別支援教育を推進する。